



1 世紀の師父エウレナイオス(リオン
の聖致命者イリネイ)は「教会のある
ところに、神の聖神(聖霊)もあり、神
の聖神のあるところには、教会とすべ
ての恵みがある。そして聖神は真理で
ある。」と書いています。教会が保存
してきた伝統は歪められ、捻じ曲げら
れたものでしょうか。それとも真理で
しょうか。今月号も「聖書のみ」とい
う文章の続きを読みたいと思います。

道央宣教セミ・ブロック機関紙

(札幌・小樽・苫小牧)

会 報

2024.5.1. No.408



札幌ハリストス正教会 発行

小樽ハリストス正教会

発行責任者 管轄司祭 エフレム後藤悠太

〒062-0042 札幌市豊平区福住 2 条 2 丁目 3 番 1 号

TEL:011-852-5644 FAX:011-856-0818

郵便振替 02790-8-4469

<http://www.orthodox-jp.com/sapporo/>

E-mail haris-sp@bz01.plala.or.jp

誤った前提：その2

聖書は初代教会の基礎をなす。一方で伝
統は後に生じた「人間の堕落」に過ぎな
いものである。

福音派の人々やいわゆるカリスマ派
の人々の間では、「伝統」という言葉自
体が軽蔑の眼差

しで使われてい
ることに気づくで
しょう。彼らにとっ
て、あるものを「伝

統」と名指しすることは「肉的なもの」、
「霊的に死んだもの」、「破滅的なもの」、
「律法的なもの」と呼んでいることにほ
ぼ等しいのです。伝統とは聖書に矛盾し
たものである、だから聖書は伝統を徹底
的に断罪している、という聖書の読み方
は彼らにとって自明のことのようです。
初代教会のクリスチャンは自分たち 20
世紀の福音派の人々やカリスマ派の

「聖書のみ」という教えは 本当に正しいのか (3)

人々とほぼ同じようであった、と彼らは
イメージしています。1 世紀のクリスチ
ャンが奉神礼を行っていたこと、あるい
は伝統を守っていたことなど彼らは思
いもしないのです。「教会が堕落して」
はじめて、そのような礼拝や伝統が教会
に紛れ込んできた、と彼らは想像してい

ます。プロテスタン
トの人々が実際に
初代教会について学び、
初期の師父の書物を学
ぶと、自分達が常に思
い描いていたイメージとは明らかに違
うことが分かってきます。それは大きな
衝撃です(私もかつてそうでした)。例え
ば、初代のクリスチャンたちは各自聖書
を携帯して教会に行き、毎日曜日に聖書
の学びをする、ということはありません
でした。実際聖書的一部分であってさえ
も、その写しを自分のものにすることは
難しいことでした。写しを作成するだけ

でも、そこに時間と資源がかかったからです。そのため写しを所有していたのは、ほんのわずかな人に限られていました。その代わり、聖書の写しは教会で担当になった人が保管したり、教会が礼拝のために集まる場所に保管されていました。さらに一つの教会が旧約聖書の写しをまるまる揃えていることは極めてまれでした。まして新約聖書についてはあり得ないことです(新約聖書は1世紀の終わり頃になっても完成していませんでしたし、4世紀までは最終的な正典のかたちで存在していた訳ではありません)。とは言っても、初代教会の人々が聖書を学んでいなかったということではありません。彼らは熱心に聖書を学んでいました。ただ個人としてではなく、グループとして学んでいたのです。そして1世紀に関して言えば、その学びは旧約聖書に限られていました。では彼らはどのようにして福音を学んだのでしょうか。どのようにハリストスの生涯や教えを学び、礼拝の仕方を学び、またハリストスの本質をどのようなものだと信じたらよいのか、といったことを学んだのでしょうか。彼らには使徒から伝えられた口頭の伝統(伝承)しかありませんでした。初代教会では多くの人が、使徒から直接このような口頭の伝統を聞き、受け継ぎました。しかし直接聞いた人は多くはありません。特に1世紀が終わり、使徒がこの世からいなくなった後の時代では不可能なことです。確かに後の世代の人々は新約聖書を通して信仰に触れる機会がありました。しかし初期の教会の人々がキリスト教の信仰を知るにあたっては、口頭の伝統にほぼ頼りきりだったのです。



彼らが伝統にたよっていたということは、新約聖書そのものからも明らかです。例えば使徒パウエルはフェサロニカの人々にこのように勧めています。

そこで、兄弟たちよ。堅く立って、わたしたちの言葉(つまり、口頭の伝統)や手紙で教えられた言伝えを、しっかりと守り続けなさい。(フェサロニカ後書 2:15)

ここで「言伝え」と訳されている言葉は、ギリシャ語の「パラドシス」です。「パラドシス」はプロテスタント版の聖書では様々に訳されていますが、ギリシャ正教で「伝統 Tradition」を指す時に用いられる言葉と同じものです。この言葉の意味については、ほんのわずかな優秀な聖書学者たちが論じている

だけです。この言葉自体を文字通り理解しますと、「伝えられたもの」という意味になります。ファリセイの教えについて言及する時にも同じ言葉が使われており、それは否定的な意味で使われています(マルコ 7:3, 5, 8)。またキリスト教の権威ある教えに言及する時にも、同じ言葉が用いられています(コリント前 11:2、フェサロニカ後 2:15)。ではなぜファリセイの伝統が間違っていて、教会の伝統は正しいのでしょうか。答えは、その源にあります！ ハリストスはファリセイの伝統の源がどこにあるのか明確にされています。ハリストスはその伝統のことを「人間の言伝え」(マルコ 7:8)と呼んでいます。一方で使徒パウエルはキリスト教の伝統について述べる時には、このように書いています。「あなたがたが、何かにつけわたしを覚えていて、あなたがたに伝えた(ギリシャ語はパラディドミ、パラディドミはパレード

シスの動詞の形)とおりに言伝え(パラドシス)を守っているのです、わたしは満足に思う。」(フェサロニカ前 11:2)しかし、そもそもパウエルはこの言伝え、つまり伝統をどこから手に入れたのでしょうか。「わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えた(パラディドミ)のである。」(コリンフ前 11:23)正教会が使徒的な伝統について語る際には、このような伝統のことを指しています。つまり使徒的な伝統とは、「聖なる者たちに一度伝えられた(パラディドミ)信仰」(イウダ 3)なのです。この伝統の源はハリストスにあります。伝統とは、ハリストスがご自身の言葉、行いを通して直接使徒たちに余すところなく伝えられたものです。そしてこのハリストスの言葉や行いとは、その全てを残らず書きとめようとしても、「世界もその書かれた文書を収めきれない」(イオアン 21:25)ものです。使徒はこのハリストスの知識を教会全体に伝えました。そしてこの知識という宝を収める宝庫となった教会は、それ故に「真理の柱、真理の基礎」(ティモフェイ前 3:15)となったのです。

新約聖書の証言はこのことについて明らかにしてくれます。初期のクリスチャンには口頭の伝統と書かれた伝統とがありました。彼らはその伝統を使徒を通してハリストスから受け取りました。書かれた伝統については、初めは断片しかありませんでした。ある地方教会には一つの書簡があり、また別の教会には一つの福音がある、といった具合です。徐々にこのような書物は集められてまとめられ、最終的に新約聖書になりました。では初期のクリスチャンたちは、ある書物が正しいもので、ある書物が正し

くないものである、ということをごどのように知ったのでしょうか。というのも(すでに述べましたように)誤りの含む書簡や福音が多くあったからです。異端者たちはその書簡や福音が使徒たちによって書かれた真正なものであると主張しました。この裁定を教会がするにあたって助けとなったのが、口頭の使徒的な伝統なのです。

プロテスタントの人々は聖なる伝統という考えに強く反発しています。その理由は簡単で、彼らが出くわした伝統のかたちというのが、もっぱらローマ・カトリックで見られるような伝統の概念であったからです。ローマ・カトリックの伝統は、教皇によって体現されるものです。また前の時代の教会には知られていないような新しい教義を発展させてきました。その醜悪な例を一つあげると、教皇不可謬説です。そのようなカトリックの伝統の考え方とは違い、正教会は伝統とは発展し、変わっていくものであるとは信じていません。教会が異端的な教えに直面すると、教会はより正確に真実と誤りの違いを明らかにせざるを得なくなります。しかし、真実自体は何も変わりません。正教会においては、伝統はある意味拡大していく、と言うことはできるでしょう。それはどのような意味かと言いますと、教会が歴史を経ていく中で、教会は決して歴史の時々によって得られる体験を忘れ去るようなことはしない、ということです。教会は歴史の中において登場した聖人たちを忘れるようなことはしません。教会の信仰を正しく表明した聖人たちが書いた書物を守り続けます。しかし信仰自体は、「聖なる者たちに一度伝えられた信仰」(イウダ 3)であり続けました。

十字架叩拝＋生神女福音祭



今年は生神女福音祭が十字架叩拝の主日に当たりました。札幌教会では4月6日(土)に徹夜祈を行い、人々が十字架に伏拝できるようにと、十字架を至聖所から聖所中央へと捧出いたしました。そして翌7日(日)には聖体礼儀を行いました。

天使は生神女マリヤに福音、つまり喜ばしい知らせを告げました。その知らせは私たちにとっても良き知らせです。救世主イエスが人としてお生まれになり、十字架にかかり死なれ、そして復活

することで、悪魔と死を滅ぼされました。これが私たちにとっての何よりの福音です。しかし、この福音には少しばかりの悪い知らせも含まれています。それは、私たち自身もハリストスの十字架を担い、ハリストスに従わなければ、その復活に与ることはできない、ということです。

この日、私たちはただ単に十字架を花で飾っただけではありません。ただ単に十字架に伏拝して接吻しただけではありません。それまでなぜ私だけにこんな災難や苦しみや悲しみが襲ってくれるのだ、と心の中で不平ばかりを漏らしていた私たちですが、この時私たち一人ひとりが十字架を背負う者となりました。しかし、独りで背負うものではありません。ハリストスと共に背負う者となったのです。

大斎という苦難と試練に満ちた時も、あともう少しで終わりに近づいてまいりました。

北海学園大学 聖堂見学

4月21日(日)、北海学園大学の学生さんを中心に北海道大学、札幌大学の学生さん総勢40名近くの方が札幌教会の聖堂の見学のためいらっしゃいました。これからロシア語を学ぼうと考えている方が多かったようです。正教会は「罪や救い」をどのように考えているのか、なぜイコンの前で祈るのか、イコノスタスとは何なのか、などキリスト教他教派との違いを含めてお話させていただきました。学生さんからはイコンに描かれた人物の頭に当たる輪は何なのか、など数多くの質問をいただきました。若い人々

が正教会に対して高い関心を寄せていることに驚かされました。



札幌教会の復活祭の十字行

今年は深夜の復活祭となりますが、十字行も敷地内を回るのではなく、歩道まで出る予定です。豊平警察署から以下のような「道路使用許可条件」が出されていますので、ご承知おきください。

1. 行列は2列の縦隊とし、その幅は2メートル以下とする。
 2. 歩道の区分のある道路は歩道を使用し、歩道のない道路は車道左側端を進行すること。
 3. 信号機に従い行進すること。
 4. 交通事故防止に万全を期すること。
 5. 交差点・曲がり角等交通の危険の生じやすい場所には、自主交通整理員を配置すること。（行列の最後尾に人をつける予定です）
- 街灯はありますが深夜の道は暗いです。急いで歩くことはせず、足元には十分ご注意ください。



教会費お忘れではありませんか

教会は5月末で会計年度を締めています。教会費を納めるのをお忘れの方は、

お早めに納めていただきますと助かります。

婦人会だより

6月5日(水)は清掃奉仕日です。聖堂、会館内の清掃もしますが、主にその周りの草取りをします。午前9時から始めて

お昼までに終了する予定です。婦人会の皆様、男性の皆様のご協力をお願い致します。（マリヤ平早苗）

イオアン森則文兄 永眠

4月9日(火)、札幌教会で婦人会長をされ、多大な貢献をされていたイウリアニヤ森朝子姉のご主人、イオアン森則文兄が永眠されました。88歳でした。ご遺

族のお話によりますと急に体調を崩されたということです。札幌教会の聖堂にて4月11日(木)に通夜パニヒダ、12日(金)に埋葬式が執り行われました。

2024年北海道ブロック・キャンプの日程

場所：音更町十勝川温泉「十勝エコロジーパーク」

日時：2024年7月31日から8月2日まで（※詳細は後日）